

# 南会津 のうりんニュース



## 今月の写真:「田島町内の冬の朝」

冬期間の合間の晴天。町に出ますと雪の片づけに精をだしている方々が多く見られます。今期の降雪は、1ヶ月早く推移しているようです。暦の上ではもう“春”ですが、本当の春が待ち遠しい今日この頃です。

## 今月の内容:

- 今月のトピックス
  - ・南会津地域集落営農リーダー研修会を開催!
  - ・ふるさと産品セミナーに参加して!
- 集落営農推進情報
  - 伊南村集落営農研修会が開催される!
- 農林事務所からのお知らせ
- 特集!!
  - 「満点なめこ」デビュー物語
- 南会津のこれが食べたい!!
  - ざくざく煮(下郷町事業課産業振興班)
- 今月のコラム
- 農林事務所からのお知らせ

平成18年2月15日発行 福島県南会津農林事務所

## 今月のトピックス

### 南会津地域集落営農リーダー研修会を開催!

**去**る1月17日、田島町の御蔵入交流館において、「南会津地域集落営農リーダー研修会」を開催しました。

115名の参加者があり、南会津農林事務所長及びJA会津みなみ専務理事の挨拶後、次のような内容で研修会が行われました。



①福島県農林水産部集落営農推進チームの菅野雅敏主査から「集落営農による農業・地域の再活性化について」と題した講演、②会津若松市湊地区生産組合連絡協議会副会長の岡島昭夫氏による「新たな農業に取り組む湊地区生産組合の活動実践について」の先進事例紹介、③管内事例紹介として、(1)会津高原たていわ農産有限会社代表取締役の星喜久夫氏が「農業生産法人を地域全体の担い手とした集落営農」について、(2)南郷村和泉田営農改善組合長の斎藤俊輔氏が「ライスセンターを核とした集落営農の実践」に

ついて、(3)下郷町芦ノ原集落営農検討委員会の遠藤正信氏が「オール兼業農家で実施する集落営農」について発表がありました。

この後、農業普及部長を座長として「集落営農の進め方」について総合検討を行い、発表者や参加者等と活発な検討が行なわれました。(農業普及部)

### ふるさと産品セミナーに参加して

**去**る1月23日にビックパレットふくしまにおいて、財団法人物産プラザふくしまの主催により「ふるさと産品セミナー『売れる商品づくりと販売戦略』」が開催され、県内各地の特産品の加工・販売を取組んでいる生産者やその関係者などが集まりました。

第1部として「食品衛生法に基づく表示について」と題し、福島県保健福祉部より商品を販売する際の表示に関する法律等について講演がありました。

次に第2部として「魅力的な商品開発の手法について」と題し、(株)キースタッフ代表取締役の鳥巢研二氏から、全国各地の事例を紹介しながら、地域特産の商品開発のポイントについて講演があり、(1)売れる(人気のある)商品には4つの条件があり、その一つに「そのまま食べられる商品」に人気があること、また、(2)消費者が、食べたことがないもの(商品)は、試食させることが大切であること、そして(3)郷土料理などは、現代風に味付することが大切であるなどの内容の講演がありました。

なお、これらは、「言われれば気づくが、言われなければ気づかない」事例ばかりで、それを気づかさせてくれる大変参考になる講演でありました。(地域農林企画室)

## 伊南村集落営農研修会が 開催される！

平成18年1月11日、伊南村村民会館において伊南村集落営農研修会が開催されました。本研修会では、認定農業者や農業委員、農事組合長などを対象に全国事例のビデオ視聴等により集落営農についての理解を深めました。また、国が平成19年度から実施を予定している経営所得安定対策についても勉強しました。

集落営農というと、集落ぐるみの共同作業や機械の共同利用などをイメージしがちですが、集落営農の定形などは無く集落の話し合いと合意により担い手(組織経営体や個別経営体など)を定め、効率的な農地の利用調整や作業の受委託による地域農業の維持・発展を図ることが重要となります。



研修会の様子

伊南村では、ライスセンターを運営する組織の法人化や集落単位での環境にやさしい米づくりの動きも出てきており、集落での話し合いが今後益々活発化し、地域農業の再構築が進むことを期待します。(農業普及部)

## 農林事務所からのお知らせ

# 災害等にも利用できる農業制度資金一覧

(表1) 施設整備に利用できる農業制度資金

※但し、一定の要件を満たした農業者等の方が利用できます

農林水産業は、自然条件に左右され、それらに伴い価格が変動したり、投資から効果が現れるまでに長時間を要するなど、一般金融では対応しづらい性格があります。

そのため、農業者が、経営に必要な資金を円滑に、より有利に借りられるようにさまざまな制度資金が設けられています。

特に、今年度は原油高や大雪など厳しい状況となっておりますが、このような場合にも農業制度資金は活用できます。なお、各資金の詳細等については、南会津農林事務所 農業振興部(電話0241-62-5253)にお問い合わせください。

資金名	農業近代化資金	農業経営基盤強化資金 (スーパーL資金) (農林漁業金融公庫資金)	経営体育成強化資金 (農林漁業金融公庫資金)	農家経営安定資金 (農業経営高度化資金、 中山間地域経営維持資金)
貸付対象者	認定農業者 認定就農者 その他の一定の要件を満たす農業者	認定農業者	その他の一定の要件を満たす農業者	農業者
貸付限度額	個人 1,800万円 法人 2億円	個人 1億5,000万円 法人 5億円	個人 1億5,000万円 法人 5億円	500万円
貸付金利	1.60% 認定の農業者の特例を受ける場合 0.275%~0.925%	0.90~1.60%	1.60%	1.60%
償還期限	15年以内	25年以内	25年以内	7年以内
措置期間	7年以内(認定農業者) 3年以内(認定農業者以外)	10年以内	3年以内	1年以内
資金使途	・農舎・ハウス等施設の整備、 農機具等農業機械の購入 ・作物の植栽、家畜の購入等	・農舎・ハウス等施設の整備、 農機具等農業機械の購入 ・作物の植栽、家畜の購入等 ・農地等の取得	・農舎・ハウス等施設の整備、 農機具等農業機械の購入 ・作物の植栽、家畜の購入等 ・農地等の取得	・農舎・ハウス等施設の整備、 農機具等農業機械の購入
その他	認定農業者の特例を受ける場合には、「経営改善資金計画書」について、市町村の特別融資制度推進会議の認定を受ける必要がある。	「経営改善資金計画書」について、市町村の特別融資制度推進会議の認定を受ける必要がある。		

(表2)  
運転資金等に  
利用できる  
農業制度資金

資金名	農家経営安定資金 (小災害資金) 県単独資金	農業経営維持安定資金 (災害等資金) 農業漁業金融公庫資金
貸付対象者	原則として損失率が10%以上の被害を受けた農業者	農業所得が総所得の過半を占める又は農業に従事する日数が総従事日数の過半を占める、災害により資金を調達することが困難な農業者
貸付限度額	300万円以内	個人 200万円以内 法人 1,000万円以内 (1戸1法人は200万円)
貸付利率	1.6%	0.90~1.60% の償還期間別金利
償還期間	5年以内	20年以内
措置期間	1年以内	3年以内
資金使途	農業経営の再生産に要する経費、収入減に伴う必要最小限の生活費、購入未払金、農作物共済の掛金等	経営再建費、災害により収入が減少した場合に充てる生活資金等
その他	借入申込書に「農業被害証明書」(市町村長による証明)を添付する必要がある。	借入申込書に「経営改善計画書」及び「災害資金細部調書」(市町村長による証明)を添付する必要がある。

注：償還期限、措置期間については、貸付対象者、資金使途によって異なる。  
注：金利は平成18年1月26日に変更予定の値です。

## 「満点なめこ」デビュー物語

福島県林業研究センターで開発した新しいナメコ品種「福島N2号」には他のナメコと比べて傘が大きい、柄が太い、ぬめりが少ないなどの特徴があります。下郷町林業振興協議会のきのこ生産者グループは平成16年に福島N2号の試験栽培に取り組み、平成17年から本格的な栽培と市場への出荷に取り組んできました。今回はその活動について紹介します。

市場へ出荷するにあたり、消費者に下郷町特産品としてアピールし、他の品種との差別化を図れるように、ネーミングやキャラクターを決めていくこととしました。南会津のうりんニュースや町の広報誌、HPを使いネーミングを一般から公募したところ、下郷町内だけにとどまらず、県内の市町村、遠くは北海道からも応募がありました。全部で94点(重複を除く)ものネーミング案が寄せられ、選考会を経て「満点なめこ」と決定、併せてキャラクターも決定しました。

平成17年9月の初出荷では、郡山市内のスーパーマーケットにおいて、ナメコ料理では馴染みのない天ぷらとサラダの2品を試食してもらいながら販売しました。試食した人の反応は上々で、開店後2時間ほどで用意した商品は完売し、その後も継続して県



「満点なめこ」商品パッケージ

内の系列店舗の店頭に並べられました。また、地元の人にも購入できるように9月から10月にかけて下郷町物産館前にテントを張り、「満点なめこ」をはじめとしたきのこの直売を行いました。

これまで各生産者は個々で販路を確保していました。しかし、一人一人は小規模な生産でも、今回グループで共同して販売まで取り組んだことで、市場との取引も可能となりました。また、グループ内での情報交換により栽培技術の向上や、新規参入者が加わる土台もできました。「満点なめこ」における今回の取り組みは、小規模生産が中心の南会津の他の農林産物でも可能な取組であると思われます。南会津の気候・風土に合った特産物の生産振興に今後も活かしていきたいと思えます。

(森林林業部)

## 南会津のこれが食べたい!!

### しんごろうと共に食される「ふるさとの味」 ざくざく煮

(下郷町事業課産業振興班)

会津の各地で大晦日や正月、節句などには欠かせない、古くから作られてきた「ふるさとの味」です。

作り方は簡単で大根、人参、ごぼうはそれぞれ1.5センチのさいの目に切り、里芋は皮をむき輪切りとします。身欠きにしんは一晩位糠水浸し、よく洗って3センチ位に切ります。昆布は1センチ巾ぐらいに切り銅鍋で煮ます。凍み豆腐はもどして拍子木切りにします。具と一緒にして煮て、醤油、塩で味つけします。

名の由来は、「各家で準備しておいた多くの材料と一緒に煮込んでご馳走したことがきっかけとなってざくざく煮が作られるようになった。」と伝えられています。

当地方では、古くは初午や、節句などに作られてきましたが、台所や水道も改善されていなかった時代、雪が

多く寒さの厳しいこの地方では冬の炊事が容易ではなく、昭和の初期頃には冬の日常食として多く用いられ、大量のざくざくを作り惣菜又は汁の代わりとして食されていました。



また、秋の収穫を祝って晩秋の頃から初冬にかけて「しんごろう」が下郷町や田島町では古くから作られてきました。この時、下郷地方では汁物として必ずざくざく煮

が作られてきましたが、今でもしんごろうと供に団らの食として、もてなしの食として、また美味の食として盛んに作られています。

(資料提供 星 孝光氏)

## 今月のコラム

### 初めてみる大雪の南会津から



ある程度、覚悟はしていたとはいえ、白い季節は12月の声とともに突然やって来てそのまま居座ってしまった。猪苗代生まれではあるが、そこにいたのは3歳まで。物心ついてからというもの、幸か不幸かこの歳まで雪国で実際に冬期間生活するのは初めての経験である。

昨シーズンも大雪の年であったというが、今シーズンは積雪が1ヶ月も早いという。中でもクリスマスの頃はすごかった。ホワイトクリスマスとはほど遠く、毎日のようにホワイトモンスターとの格闘になっていた。

アパートの屋根には1メートルを超えるような積雪が層を成し、さらにそれが雪鬘状に1メートル近くせり出し、そこからさらに長さ1メートルはあろかという氷柱が何本も垂れ下がり、あたかもティラノサウルスの口元を連想させる。年が明けてからはそれまでのような乱暴な降り方はしていないように思うが、それでもアパートの軒下を通る時は上を見ながら恐怖心を抱くことになる。大家さんをお願いして、アパートの屋根の雪下ろしをしてもらい、やっとこの恐怖から解放されたのはつい最近のことである。

さて、昨年4月に赴任したころもまだ残雪が多く、合同庁舎回りの斜面で雪解けが始まったところから突然「フクジュソウ」の黄色い花が咲き出し、それが合図となって次々と見慣れぬ草花が開花していったのが印象的であった。次に「フクジュソウ」の花を見つける時が今から楽しみであるが、さらに、それに続き小さな紫色の花を着けてあつという間に消えてしまった「ミチノクエンゴサク(と思われる?)」を確認したいと思っている。

(森林林業部 林業グループ課長 渡部正明)

## 農林事務所からのお知らせ

### 「南会津地方森林セラピー講演会」の開催のお知らせ

近年森林には、人にリラックス効果をもたらすことが科学的に証明されつつあり、人間のストレス解消などに繋がるのが期待されています。

そこで、南会津の自然資源が有する可能性を探るとともに、森林や温泉資源などを活用した“癒しの里づくり”に向けて地域が一体となって取り組み、地域経済の活性化を図ることを目的として講演会を開催します。

開催日時 平成18年3月1日(水) 13:30~16:00

場所 田島町 御蔵入交流館 多目的ホール

基調講演

講師：長野県信濃町森林メディカルトレーナー  
高力一浩氏

長野県自然観察インストラクター・長野県指定薬草指導員・里山教室「柚小屋」地域文化担当教師・宿泊業(黒姫高原ロッジしらかば)経営者

※どなたでも参加可能です。

問い合わせ先

地域農林企画室(電話:0241-62-5866)



### お問い合わせ先はこちら

〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/nourin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。

**R100** PRINTED WITH **SOYINK**™

古紙配合率100%再生紙を使用しています。  
この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。